

# 阿賀野川現地視察

## 目次

■ 阿賀野川の概要	1
■ 阿賀野川の改修の歴史	2
■ きょうがせ防災ステーション	3
■ 樹木管理	4
■ JR羽越本線橋梁取付部対策	5
■ 渡場床固め	6
■ 無堤地区対策	7
■ 阿賀野川頭首工	8
■ 水利用の実態（1）	9
■ 水利用の実態（2）	10
■ 正常流量（1）	11
■ 正常流量（2）	12
■ 弱小堤対策	13
■ 早出川捷水路事業（1）	14
■ 早出川捷水路事業（2）	15
■ 小阿賀樋門、満願寺閘門	16
■ 沢海第一床固め、第二床固め	17
■ 横越地区水衝部対策	18
■ 不法係留船対策	19
■ 堤防耐震対策	20
■ 河口砂州対策	21
■ 大浜陸閘（Ⅰ）、（Ⅱ）	22
■ 胡桃山排水機場	23
■ 灰塚地区水衝部対策	24

# 阿賀野川の概要

水源：荒海山（標高1,580m）

流域面積：7,710km<sup>2</sup>（新潟県1,660km<sup>2</sup> 福島県6,050km<sup>2</sup>）

幹川流路延長：210km（新潟県87km 福島県123km）

大臣管理区間：39.2km（阿賀野川本川34.6km 支川早出川4.6km）

流域内市町村：5市2町（人口約110万人）-2005国勢調査-

- ・新潟市81万人
- ・新発田市10万人
- ・五泉市5.6万人
- ・阿賀野市4.7万人
- ・加茂市5.7万人
- ・聖籠町1.3万人
- ・阿賀町1.5万人

年平均降雨量：1,776mm（新潟）-理科年表H18年版-



# 阿賀野川の改修の歴史



正徳3年（1713年）頃の阿賀野川

河道分布図  
■ 現河道  
■ 旧河道



旧小阿賀樋門  
（第一期改修）



旧満願寺閘門  
（第一期改修）



沢海第二床固め

沢海第一床固め

沢海第一床固め（第一期改修）、  
沢海第二床固め（第二期改修）

藩政時代の松ヶ崎開削：享保15年（1730）



日本海

松ヶ崎開削の図  
（新潟市蔵）

## 第一期改修工事（大正4年～昭和8年）

大正2年（1913）8月の大洪水・木津切れ（小阿賀野川）を契機に、大正4年～昭和8年まで馬下から河口まで約35km区間を直轄事業として本格的な改修に着手し、ほぼ現在の河道が形成。（満願寺閘門及び沢海第一床固め設置）



大正2年の木津切れによる被害状況



— 築堤  
 掘削・浚渫

## 第二期改修工事（昭和22年～昭和40年）

第一期改修後、河床の低下が年を追って顕著となり、渇水時の船の航行不能、用水の取水が困難となったため、新たな床固めを設置。（沢海第二床固め設置）



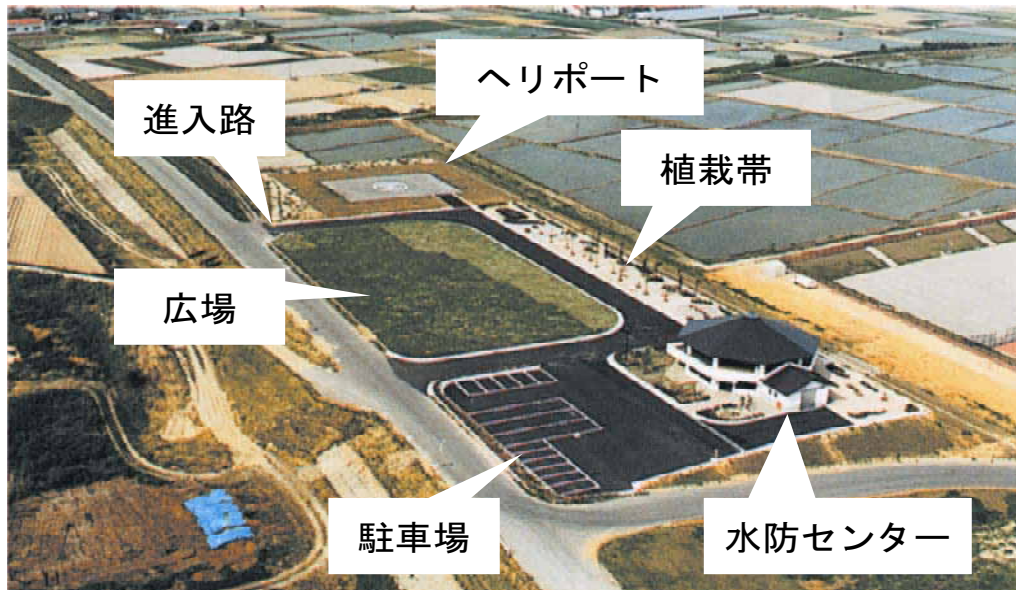
杭出水制と粗朶沈床



沢海高水敷床固め

# きょうがせ防災ステーション

「河川防災ステーション」は、国土交通省と沿川自治体が一体となって整備を進めている施設で、緊急時に必要な土砂などの資材を備蓄しておくとともに、洪水時には水防及び緊急復旧の活動基地・ヘリポートなどとして利用。



阿賀野川きょうがせ防災ステーション

また、平常時には地域住民のレクリエーションの場として、河川を中心とした文化活動の拠点として活用されている。

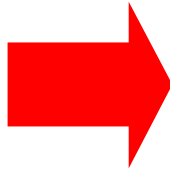


下里桜つつみ

下里桜つつみは防災ステーションの上流側に位置し、延長約720mで「桜つつみモデル事業」によって整備。

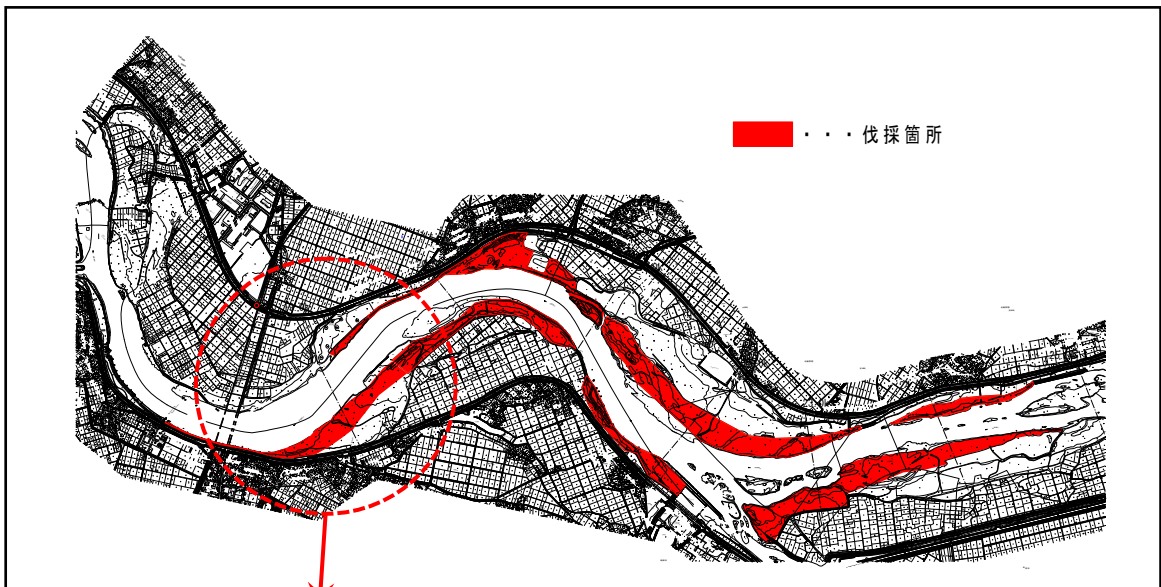
# 樹木管理

河道内樹木の繁茂により、河道の流下能力が低下し、洪水時の水位上昇につながる。流下能力に支障を与える河道内樹木については、動植物の生息・生育環境を保全する観点等、河川環境への影響を配慮しつつ、河道内樹木のモニタリングを実施し、伐採など適切な対策を講じる必要がある。



伐開による視野拡大の効果事例（H18満願寺地先R17.0K付近）

## ■ 河道内樹木伐採計画（18.0k～24.6k区間の例）



阿賀浦橋周辺より上流を望む  
高水敷一面樹木が密生

# JR羽越本線橋梁取付部対策

JR羽越本線阿賀野川橋梁は大正元年の完成から94年になるが、桁下の余裕高が足りず、径間長も不足しているため、治水上のネックとなっている。

現在は、CCTVカメラにより監視体制を強化するとともに、平成18年12月14日に覚書（阿賀野川河川事務所長、JR新潟支社長、阿賀野市長）を取り交わし、近傍の堤防上に土のう等を常備して水防活動に万全を期している。



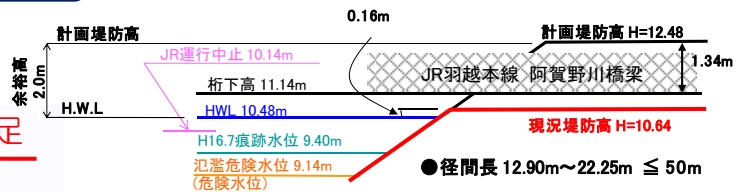
平成16年7月13日洪水時のJR羽越本線阿賀野川橋梁付近の状況

水防資材を近傍に常備

## JR羽越本川橋梁水防活動状況



平常時



JR羽越線橋梁部横断模式図



出水時水防活動(H16.7.13)

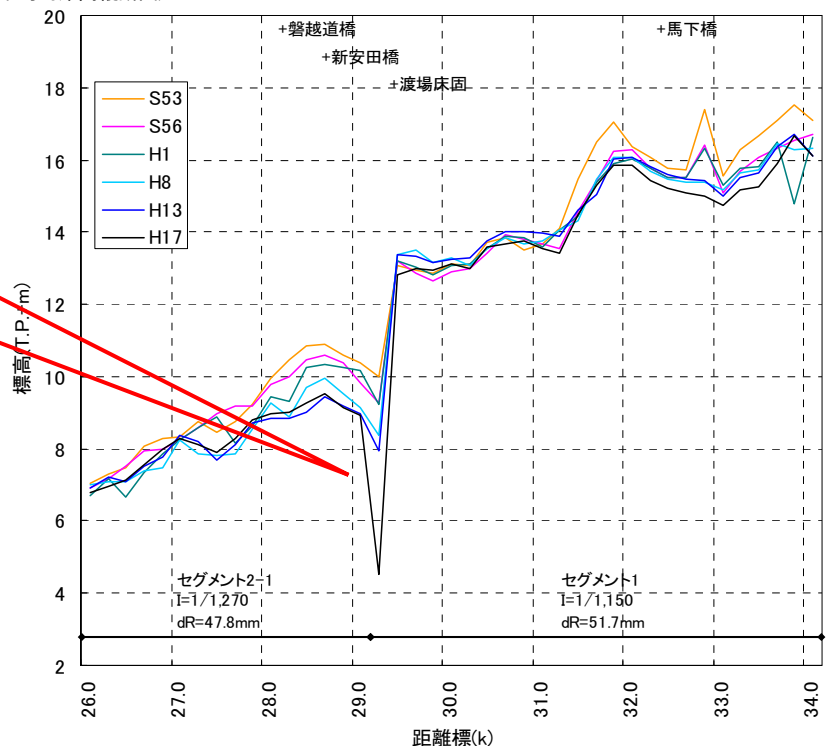
# 渡場床固め

- 渡場床固めは、旧河道が網状に分布し洪水を繰り返したところに設置されており、河道の安定と河床洗掘防止のため、昭和29年～32年にかけて設置された。昭和51年～52年には、深掘対策として8t～16tの異形ブロックを約3,400個投入して大補修を行っている。
- ただし、現状においては敷高が高いことから、29.4k上流の流下能力不足の大きな要因となっている。



渡場床固め（撮影：平成20年8月）

(平均河床高縦断面図)



# 無堤地区対策

## ■ 小松地区無堤対策

阿賀野川右岸32km～34kmの小松地区は、大臣管理区間で唯一の無堤地区であり、計画高水流量に達する前に浸水被害が生じるため築堤を行う必要がある。



整備イメージ



阿賀野川右岸小松地区



# 阿賀野川頭首工

阿賀野川頭首工は、阿賀野市小松(咲花温泉下流)に位置し、農業用水、生活用水ともに安定した水量を得るための取水施設である。

新潟県新発田地域振興局が、24時間体制で管理・維持を行っている。



阿賀野川頭首工

## 阿賀野川頭首工

堰堤全長	:	206.4m
土砂吐水門	:	1門
舟通水門	:	1門
洪水吐水門	:	
ローラーゲート	:	3門
自動転倒堰	:	2門
右岸取水量最大	:	34.32m <sup>3</sup> /sec
左岸取水量最大	:	16.33m <sup>3</sup> /sec
竣工	:	昭和41年3月
施工主	:	北陸農政局



左岸取水口

# 水利用の実態(1)

流域内の年平均降水量は、越後平野では約1,900mmであり、特に只見川流域は年平均降水量が約2,300mmと、我が国有数の豪雪地帯であることなどから阿賀野川の年総流出量（馬下地点）は約142億 $m^3$ と我が国屈指の量を誇っている。

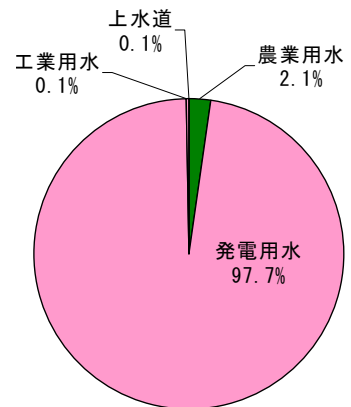
阿賀野川の豊富な水量は古くから、かんがい用水・生活用水及びその水量と地形条件を活用した水力発電開発が盛んに行われてきた。阿賀野川の水利用の概況は、約5万haに及ぶかんがい用水、新潟市等への上水道用水、新潟東港臨海工業地帯等への工業用水、並びに豊富な水資源と有利な地形を利用した発電用水として広く利用されている。特に発電用水は、田子倉ダム等63カ所の発電所において、総最大出力約420万kWに及ぶ発電を行っている。

## 阿賀野川における使用目的別流量割合

平成18年4月30日現在

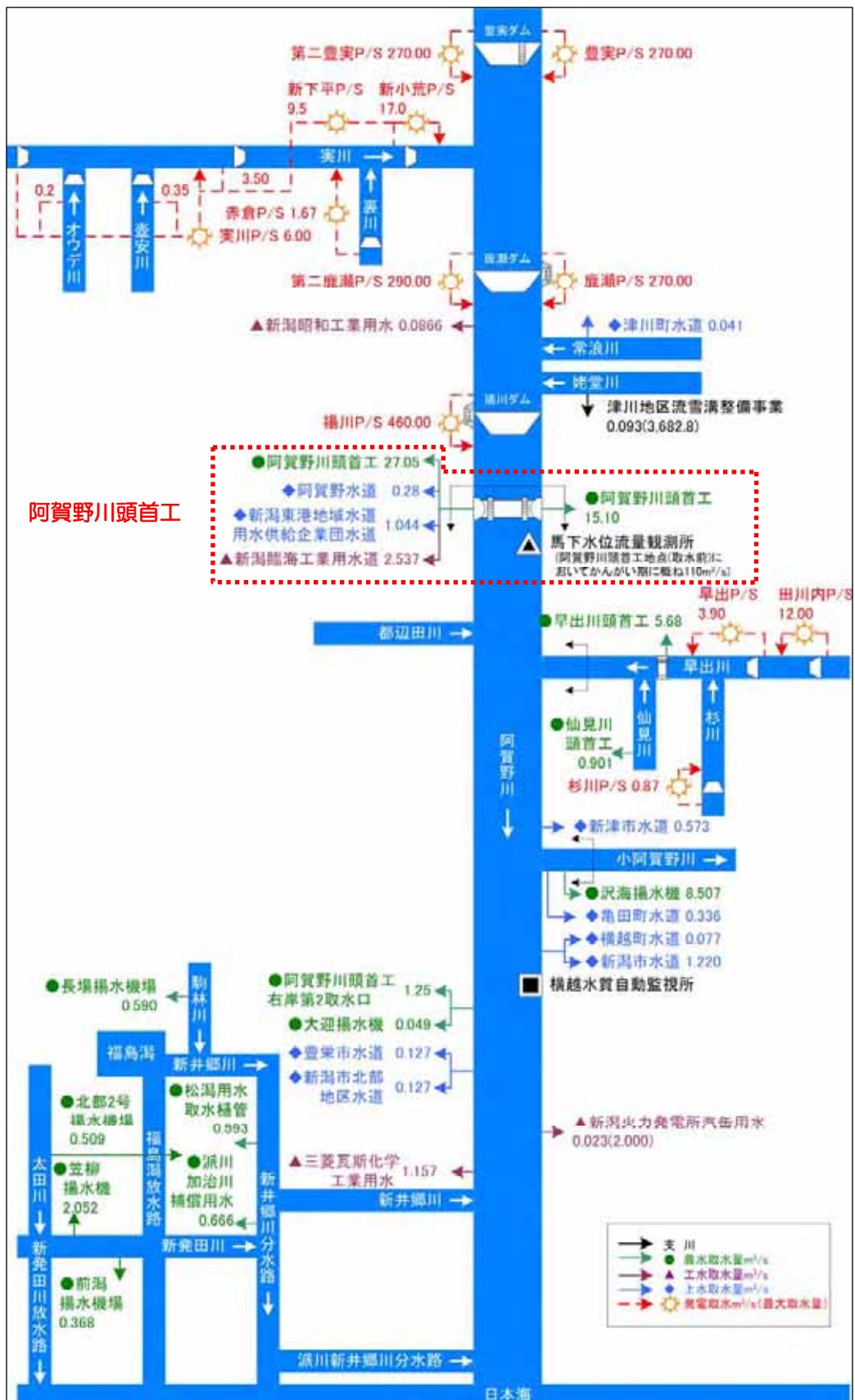
使用目的	灌漑面積 (ha)	取水量 ( $m^3/s$ )	件数
発電用水	—	8,041.970	63
上水道	—	6.872	16
工業用水	—	4.137	6
農業用水(許可)	53,090	176.038※	31
雑用水		—	
合計	53,090	8229.017	116

※ただし、農業用水水利使用は、取水量を期別で設定しており、地域によって最大取水を行う時期が異なるため、同時期での最大取水とはならない。



【出典：北陸地方整備局河川部水政課 河川管理統計資料,平成18年4月】

# 水利用の実態(2)



阿賀野川水利模式図 (平成18年4月30日現在)

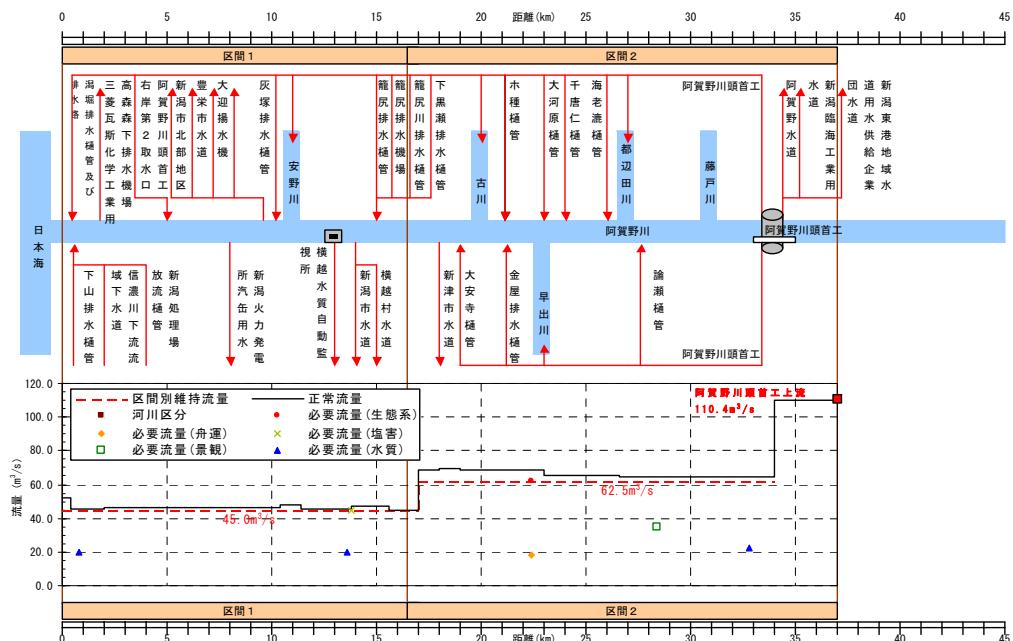
# 正常流量(1)

動植物の生息地又は生育地の状況や流水の清潔の保持、塩害など9項目の検討により維持流量を設定し、水利流量・流入量をあわせた結果、正常流量を阿賀野川頭首工上流地点においてかんがい期概ね110m<sup>3</sup>/s、非かんがい期概ね77m<sup>3</sup>/sとした。

かんがい期

検討項目	維持流量		阿賀野川頭首工上流地点での必要な流量	決定根拠
	区間	維持流量		
①動植物の生息又は生育地の状況	区間1	—	—	感潮区間であり、水深が十分確保されていることから魚類の移動は妨げられない
	区間2	62.5	108.5	金屋地点で、サケ、サクラマス等の移動、ウケチウグイ、ニゴイ、ウグイの産卵に必要な水深30cmを満足するために必要な流量
②景観	区間1	—	—	感潮区間で流量が把握出来ない
	区間2	35.0	81.0	フォトモニターによるアンケート調査結果から、安田橋で過半数の人が許容する眺望から得られる流量
③流水の清潔の保持	区間1	19.9	85.3	松浜橋地点で将来の1/10濁水流量時における流出負荷量に対して、環境基準の2倍値を達成するために必要な流量
	区間2	22.3	37.1	馬下橋地点で将来の1/10濁水流量時における流出負荷量に対して、環境基準の2倍値を達成するために必要な流量
④舟運	区間1	—	—	感潮区間であり舟運に必要な水深は十分確保されている
	区間2	18.4	64.4	砂利運搬船の吃水深1.5mを確保するための流量
⑤漁業	①、③、④の条件を満足すれば良い			
⑥塩害の防止	区間1	45.0	110.4	阿賀野川浄水場取水口に塩水が到達しないための阿賀野川浄水場地点における流量
	区間2	—	—	塩害が問題となることはない
⑦河口閉塞の防止	—	—	—	河口閉塞が問題となることはない
⑧河川管理施設の保護	—	—	—	木製の河川管理施設等は存在しない
⑨地下水位の維持	—	—	—	濁水時に問題が生じたことはない

区間1：阿賀野川河口～沢海床固 区間2：沢海床固～阿賀野川頭首工



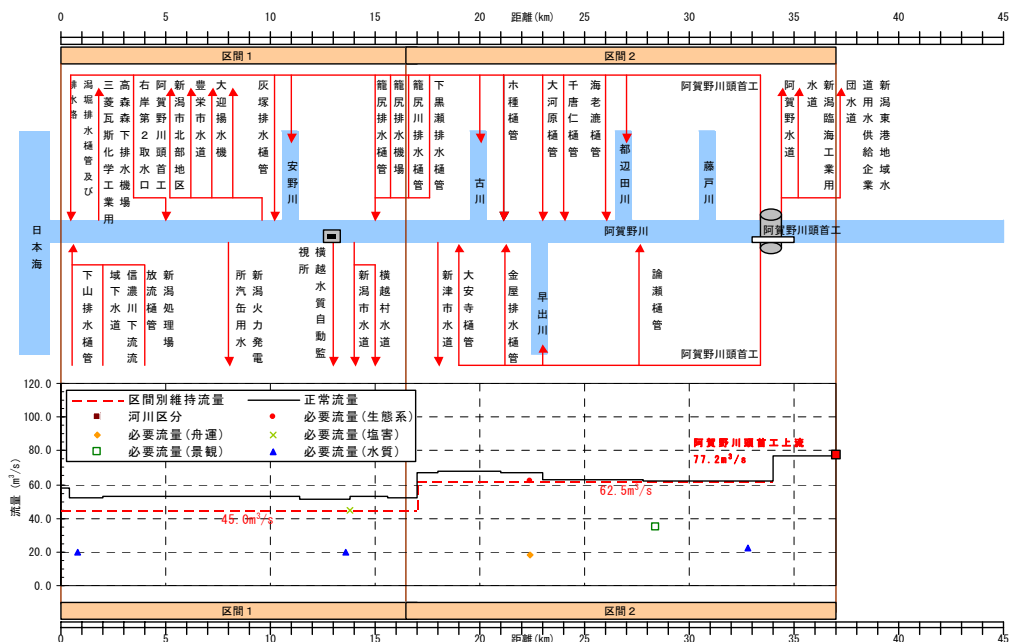
阿賀野川正常流量縦断面図 (かんがい期：4/26～9/5)

# 正常流量(2)

非かんがい期

検討項目	維持流量		阿賀野川 頭首工上 流地点で の必要な 流量	決定根拠
	区間	維持流量		
①動植物の生息又は生育値の状況	区間1	—	—	感潮区間であり、水深が十分確保されていることから魚類の移動は妨げられない
	区間2	62.5	77.2	金屋地点で、サケ、サクラマス等の移動、ウケケチウグイ、ニゴイ、ウグイの産卵に必要な水深30cmを満足するために必要な流量
②景観	区間1	—	—	感潮区間で流量が把握出来ない
	区間2	35.0	49.7	フォトモニターによるアンケート調査結果から、安田橋で過半数の人が許容する眺望から得られる流量
③流水の清潔の保持	区間1	19.9	45.4	松浜橋地点で将来の1/10濁水流量時における流出負荷量に対して、環境基準の2倍値を達成するために必要な流量
	区間2	22.3	68.3	馬下橋地点で将来の1/10濁水流量時における流出負荷量に対して、環境基準の2倍値を達成するために必要な流量
④舟運	区間1	—	—	感潮区間であり舟運に必要な水深は十分確保されている
	区間2	18.4	33.2	砂利運搬船の吃水深1.5mを確保するための流量
⑤漁業	①、③、④の条件を満足すれば良い			
⑥塩害の防止	区間1	45.0	70.5	阿賀野川浄水場取水口に塩水が到達しないための阿賀野川浄水場地点における流量
	区間2	—	—	塩害が問題となることはない
⑦河口閉塞の防止	—	—	—	河口閉塞が問題となることはない
⑧河川管理施設の保護	—	—	—	木製の河川管理施設等は存在しない
⑨地下水位の維持	—	—	—	濁水時に問題が生じたことはない

区間1：阿賀野川河口～沢海床固 区間2：沢海床固～阿賀野川頭首工



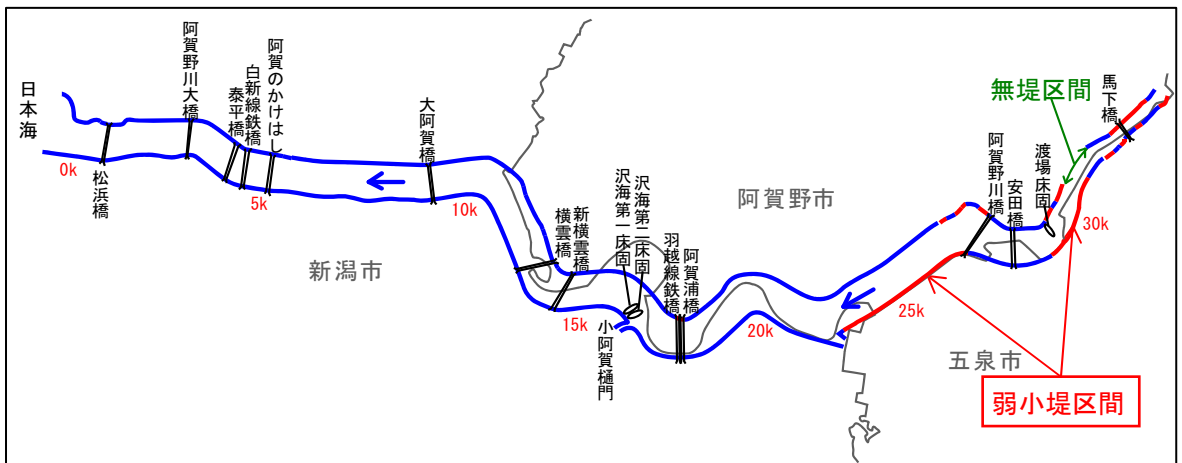
阿賀野川正常流量縦断図（非かんがい期：1/1～4/25、9/6～12/31）

# 弱小堤対策

阿賀野川23.0kmより上流の左岸は、堤防の高さ及び幅が不足しているため、必要断面を確保し、安全性を向上させる必要がある。



阿賀野川左岸笹堀地区



平面模式図

# 早出川捷水路事業(1)

早出川は、五泉市街地付近で曲がりくねっていたうえ川幅が狭くなっていたため、洪水を流す能力（流下能力）は計画高水流量 $1,850\text{m}^3/\text{s}$ に対し半分程度であった。この区間での流下能力の増大を図るため曲がりくねった箇所を解消する捷水路事業を行った。



早出川捷水路

## 捷水路の事業内容

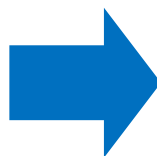
- 工期 : H1~H11
- 総事業費 : 約200億円
- 延長 : 2500m→2000m
- 川幅 : 90m→200m
- 築堤 : 4,050m(両岸)
- 護岸 : 5,020m(両岸)
- 橋梁 : 三本木橋、桑山橋
- 樋門、及び機場 : 太田川排水機場1機



早出川捷水路事業は、「景観モデル事業」として平成3年度に認定を受け、その他の公共構造物（橋梁、排水機場等）を含めて早出川周辺の景観と調和させるように有識者の意見を聞きながら事業の進捗を図った。



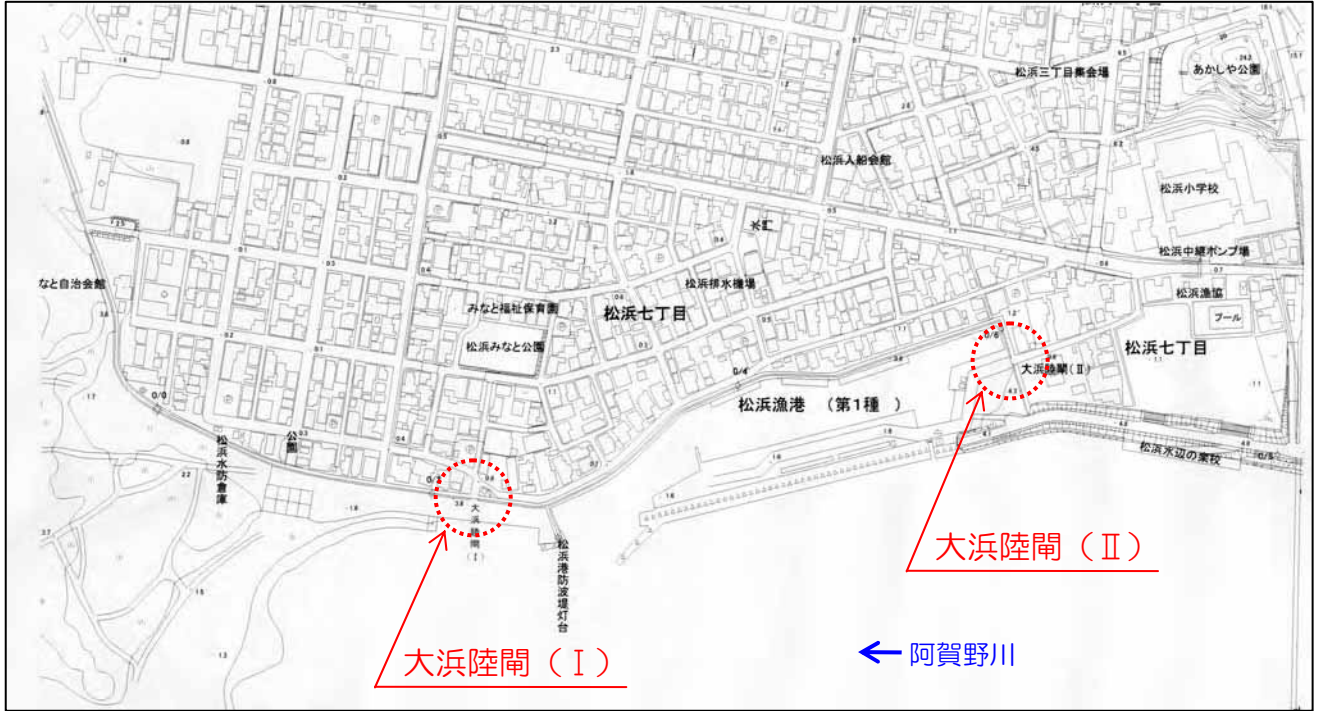
緩傾斜の水辺 (H6撮影)



豊かな自然が回復した捷水路 (H12撮影)

# 大浜陸閘(Ⅰ)、(Ⅱ)

大浜陸閘は、特殊堤設置当時から角落し板により洪水時は閉塞していた。その後、昭和52年10月に手動による鋼製横引きゲートを設置した。  
(断面形状：幅3.2m×高さ(Ⅰ)2.15m、(Ⅱ)2.18m)



(1) 大浜陸閘(Ⅰ)



平成17年7月撮影



平成17年7月撮影

(2) 大浜陸閘(Ⅱ)



平成17年7月撮影



平成17年7月撮影



# 早出川捷水路事業(2)

## ■ 早出川捷水路の事業効果

平成16年7月13日洪水において、早出川ダム、早出川捷水路がなかったら、早出川の善願橋付近で水位が実績より約1.3m上昇し、計画高水位（計画の流量を安全に流すことのできる水位）を超え、堤防が切れても不思議ではない状態になったと推定される。この状態で善願橋付近が破堤した場合、約4,500戸の家屋が浸水するなどの甚大な被害が発生したと想定される。

〔想定浸水区域図〕



平成16年7月13日善願橋より下流を望む



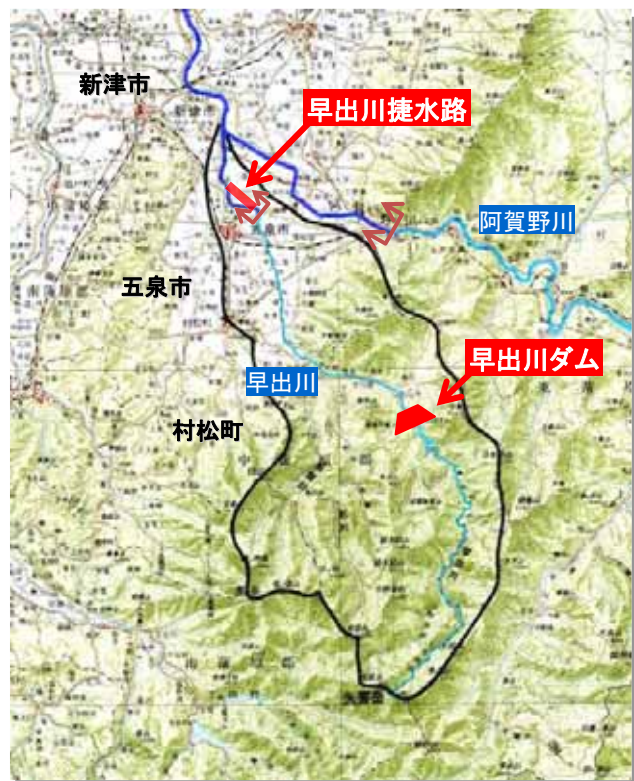
～想定被害～

- 浸水面積 約2,000ha
- 浸水家屋 約4,500戸
- 被害額 約1,400億円

早出川捷水路・早出川ダムの効果により



被害なし



早出川流域図

# 小阿賀樋門、満願寺閘門

大正2年の洪水を契機に「阿賀野川第一期改修工事」が始まりこの工事の一環として阿賀野川と信濃川の船の輸送を確保するため満願寺閘門を設置した（昭和3年3月完成）。また、阿賀野川から洪水を防ぎ、小阿賀野川に必要な水量を流す目的で小阿賀樋門を設置した（昭和6年9月完成）。現行の施設は、昭和45年～昭和49年に改築されたものである。



旧満願寺閘門（第一期改修）



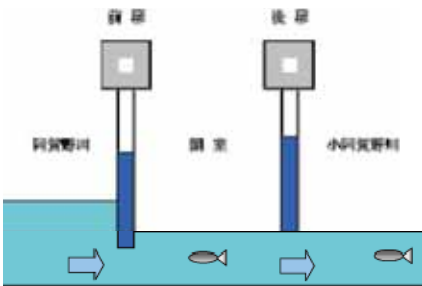
旧小阿賀樋門（第一期改修）



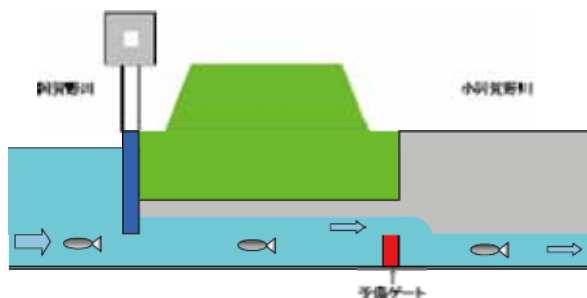
現在の満願寺閘門と小阿賀樋門

## ■ 満願寺閘門サケの遡上実験を実施

小阿賀野川には毎年たくさんのサケが遡上するため、満願寺閘門・小阿賀樋門を利用したサケの遡上実験を平成19年10月25日～平成19年11月6日に実施した。また、今年度アユの遡上実験も5月25日～26日に実施している。



満願寺閘門実験概要



小阿賀樋門実験概要



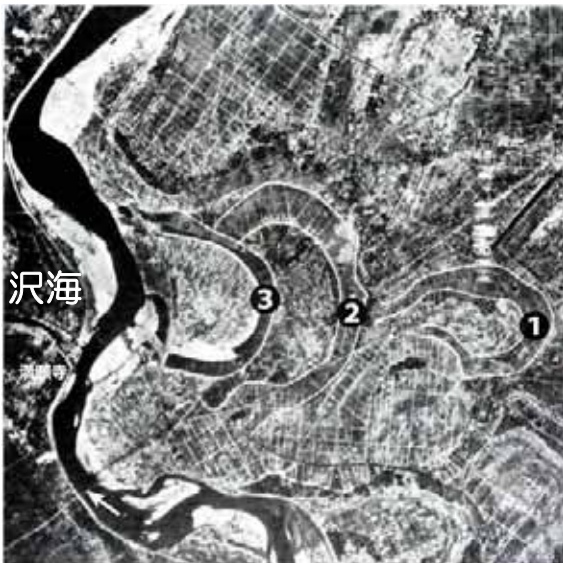
跳躍するサケ

# 沢海第一床固め、第二床固め

「阿賀野川第一期改修工事」によって、沢海付近は洪水を安全に流すために川が大きく蛇行していた部分を直線的に結ぶ捷水路を施工した。それに伴い付近の河床が低下するのを防ぐため、昭和3～4年にかけて沢海第一床固めを設置した。その後、河床の低下が目立ち始めたので、新たな床固めの必要性が生じ、昭和25年～27年に第二床固めを設置（第二期改修）した。

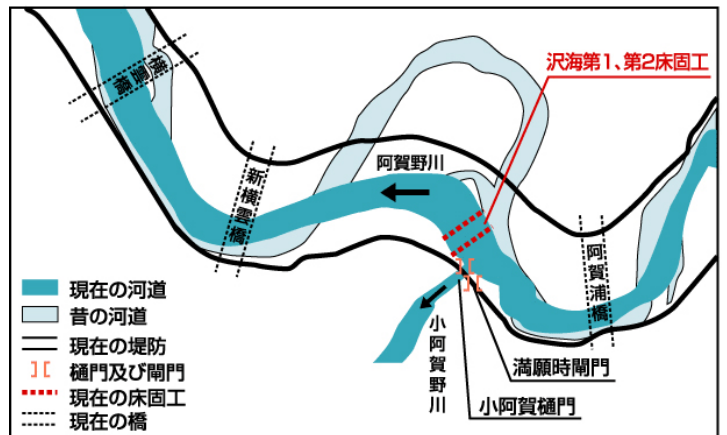


沢海第一床固め、第二床固め



- ① 正徳3年(1713)頃の河道
- ② 宝暦12年(1762)頃の河道
- ③ 明治44年(1911)頃の河道

焼山付近における旧河道の分布



第一期改修工事による河道改修と沢海床固め

# 横越地区水衝部対策

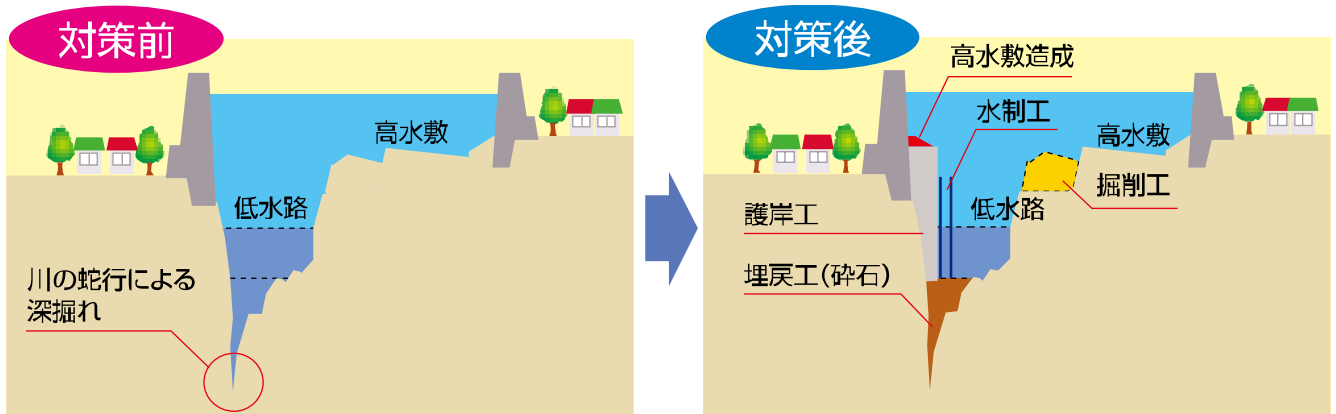
横越地区水衝部対策は、水衝部における河床洗掘の進行を防ぐため、平成7年から深掘れ箇所の埋戻しと低水護岸工、水制工の整備を行い、平成17年に概成。



## 全体計画

- ・ 低水護岸工 / 1,358m
- ・ 掘削工 / 70,000m<sup>3</sup>
- ・ 水制工 / 24基
- ・ 橋脚補強工 / 5基
- ・ 置換工 / 44,400m<sup>3</sup>

灰塚、横越地区水衝部



横越地区水衝部対策模式図



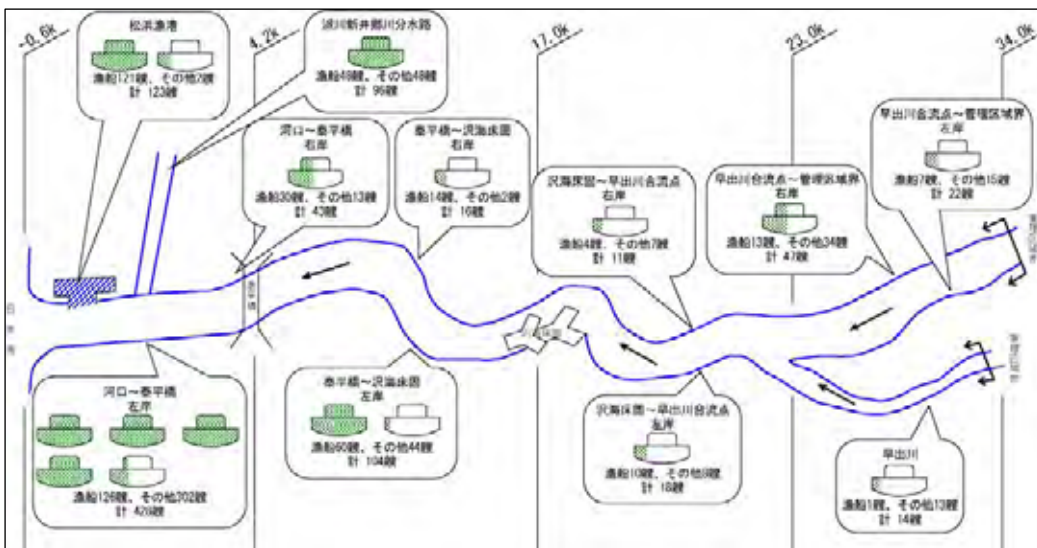
左岸14k付近低水護岸 施工前



左岸14k付近低水護岸 施工後（平成16年3月）

# 不法係留船対策

- 河口部にプレジャーボートや漁船類がアンカー等を打ち込んで係留している状況が見受けられる。これらアンカー等係留施設の存在が、洪水時における洪水流の河積阻害となることが想定され、治水に対する悪影響を及ぼすことが懸念される。
- 阿賀野川における不法係留船は、平成18年度係留船全国調査によって実態が把握されている。調査の結果、不法係留船の約6割が泰平橋下流左岸に係留している。
- 「信濃川・阿賀野川下流域水面利用協議会」において対策を検討している。



平成18年度係留船全国調査

**920艘**  
不法係留船数  
H18年調査結果

## ■ 不法係留船



左岸1.2k地点



平成19年1月  
放置・係留船の是正看板設置

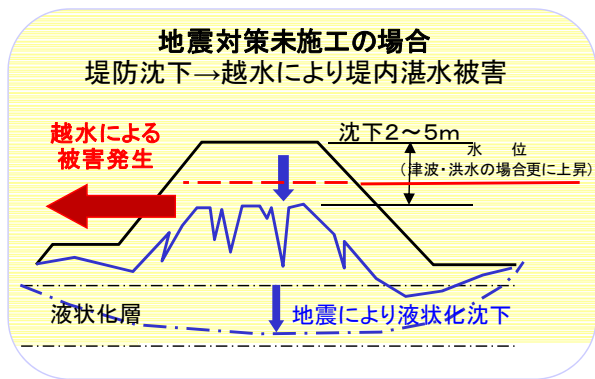
# 堤防耐震対策

阿賀野川における河口部は、堤防下の地盤が地震により液状化する層が存在する。そのため、大規模な地震が発生し地盤が液状化現象を起こした場合、堤防を支えられず沈下するとともに破壊されることが想定されている。

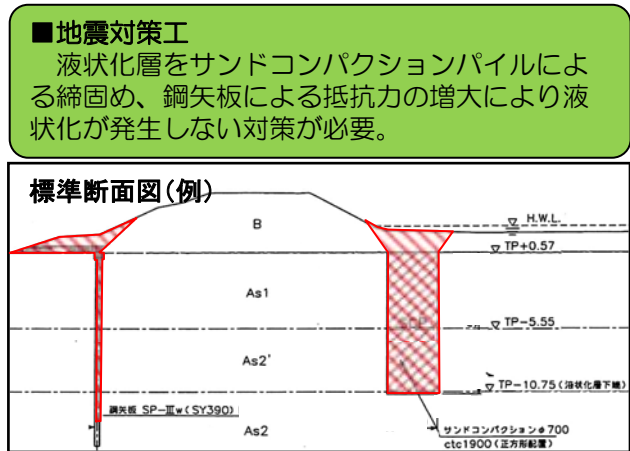


■ ■ ■ 要対策区間

地震動への要対策区間



対策



## 新潟地震(S39.6.16)による被災状況



左岸1.0km (新潟市下山)



右岸0.0km (新潟市松浜)

# 河口砂州対策

河口部の砂州は、冬期波浪等により発達し、融雪期及び梅雨期等の洪水によりフラッシュされ、減退と伸長を繰り返しているが、そのメカニズムは未だ結論を得ていない。

治水上の課題としては河口閉塞があり、利水上は舟運や塩水遡上があるため、今後も注視していかなければならない。



河口汀線の経年変化



H17.5.26撮影



H19.4.30撮影

## ■ 下山波浪被災（平成18年10月、12月）

平成18年10月及び12月に低気圧の発達による風浪のため、阿賀野川河口の左岸堤防護岸が一部欠損の被害を受けた。

被災箇所の背後地には、拠点空港であり国際線を持つ新潟空港があることから応急復旧工事及び緊急復旧工事を実施。

被災原因は、近年、河口部左岸側の砂州が上流へ移動し、風浪が直接堤防に打ち上がるようになったためと考えられる。



# 胡桃山排水機場

昭和53年6月の内水被害を契機に、「直轄河川激甚災害特別緊急事業」として整備が行われ、昭和57年7月に $30\text{m}^3/\text{s}$ ポンプと導水路が完成した。その後、市街化の進展等による災害ポテンシャルの増大にともない、計画規模である $50\text{m}^3/\text{s}$ に増強し平成8年度に完成した。それ以後、平成10年、平成14年、平成16年7月の出水では新井郷川流域の治水に大きな効果を発揮し被害を軽減した。



計画流量配分図

## ■ 昭和53年6月洪水被害状況

浸水戸数	床下	2,238戸
	床上	161戸
	計	2,399戸
田畑の冠水面積	4,822ha	



昭和53年6月26日洪水浸水状況

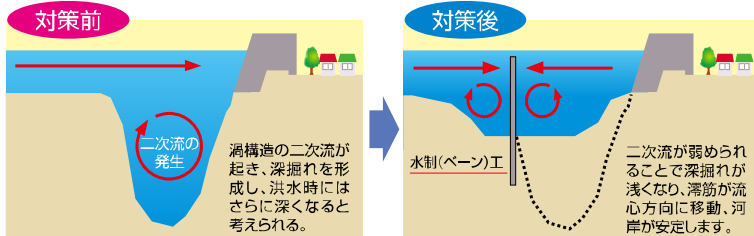


# 灰塚地区水衝部対策

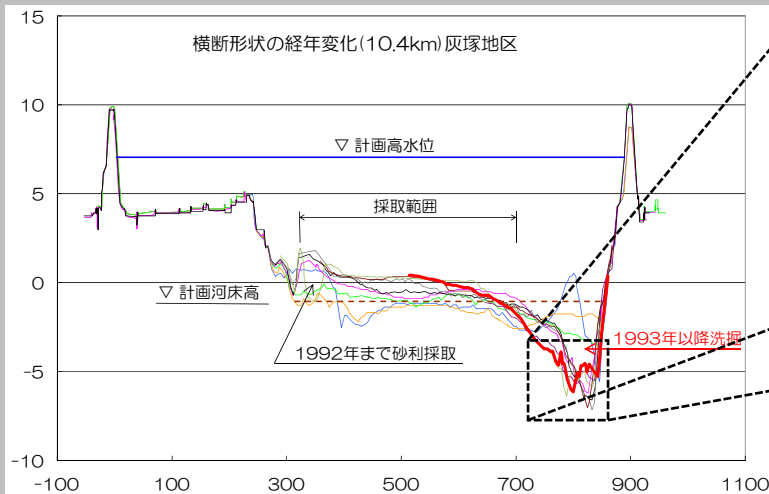
阿賀野川の河道は、全国でも例をみない大きな湾曲部が続いており三大水衝部（灰塚、横越、中新田）を形成している。灰塚地区水衝部対策は、平成14年から深掘れ箇所の埋戻しと水制工（ベン工）の整備を行い、平成19年末現在でベン36基を施工済み。（全体計画105基）  
 今後もモニタリング調査を行い、効果の度合いを把握しながら段階的に整備を実施予定。



阿賀野川三大水衝部



ベン工概念図



ベン設置箇所の経年変化モニタリング

深掘箇所は徐々に堆積し、流心は内側に移動している。

# 阿賀野川の環境

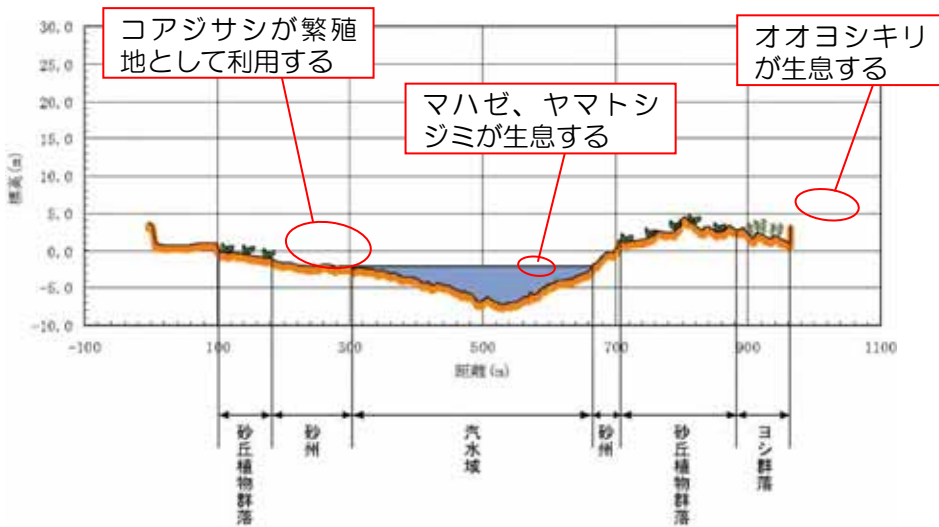
## 目次

■ 河口部の自然環境	1
■ 下流部の自然環境	2
■ 中流部の自然環境	3
■ 上流部の自然環境	4
■ 阿賀野川の環境整備事業	5
■ 大和・松浜水辺の学校	6
■ 河川空間の利用状況、 連携・協働による河川管理の推進	7
■ 阿賀野川フラワーライン	8



# 河口部の自然環境（河口～6.0km）

- 三角州性低地を緩やかに流れ、潮汐の影響を受ける区間である。河口には砂州が形成され、また5k地点には300m以上の大規模な中州が形成されている。
- 汽水域の水面には、マハゼ等の汽水魚や、ヤマトシジミ等が生息している。河口砂州には、ケカモノハシ群落等の砂丘植物群落 distributes、植生の少ない場所はコアシサシの集団繁殖地となっている。水際は、ヨシ等が分布し、オオヨシキリが生息及び繁殖の場として利用している。中州は、ムクノキーエノキ群集等の高木林やヤナギ林が分布し、サギ類による集団営巣が確認されている。



河口部の生息・生育環境



阿賀音川河口部の様子



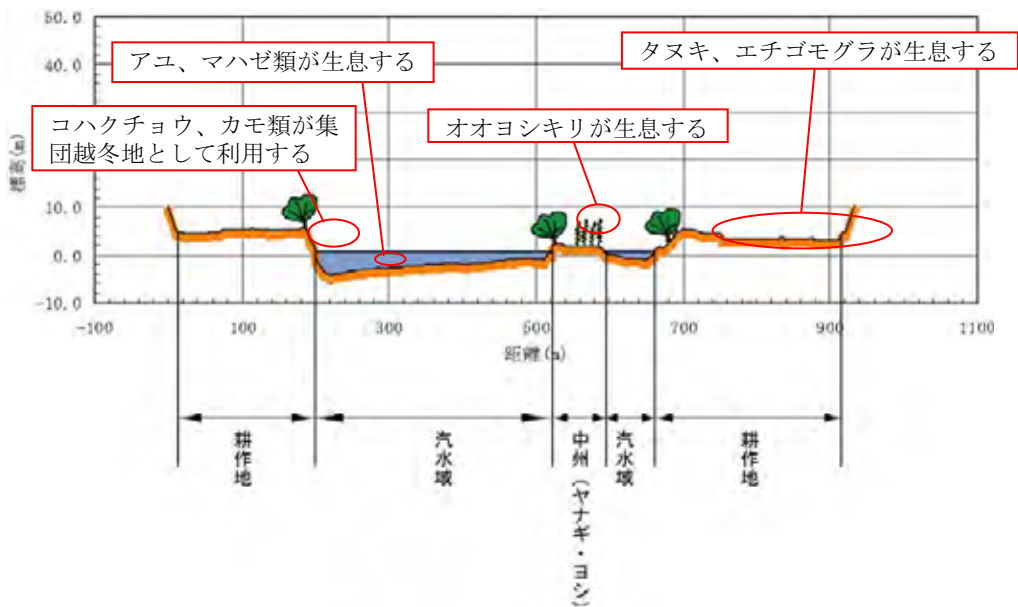
ヨシ



ダイサギ

# 下流部の自然環境（6.0km～沢海床固）

- 氾濫原性低地から三角州性低地を緩やかに流れる。
- 水面にはアユ、マハゼ等、ワンドにはヌカエビ等が生息する。流れの緩やかな水面や止水域から高水敷の耕作地にかけてコハクチョウ・カモ類が集団越冬地として利用している。水際にはヨシ等が分布し、オオヨシキリが生息及び繁殖の場として利用している。日当たりのよい湿性の環境にはヤナギ林が分布し、アカネズミ等が生息する。高水敷には耕作地が広がり、タヌキ、エチゴモグラ、アマガエル等が生息している。



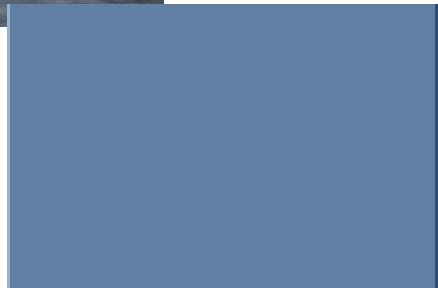
下流部の生息・生育環境



阿賀野川下流部の様子



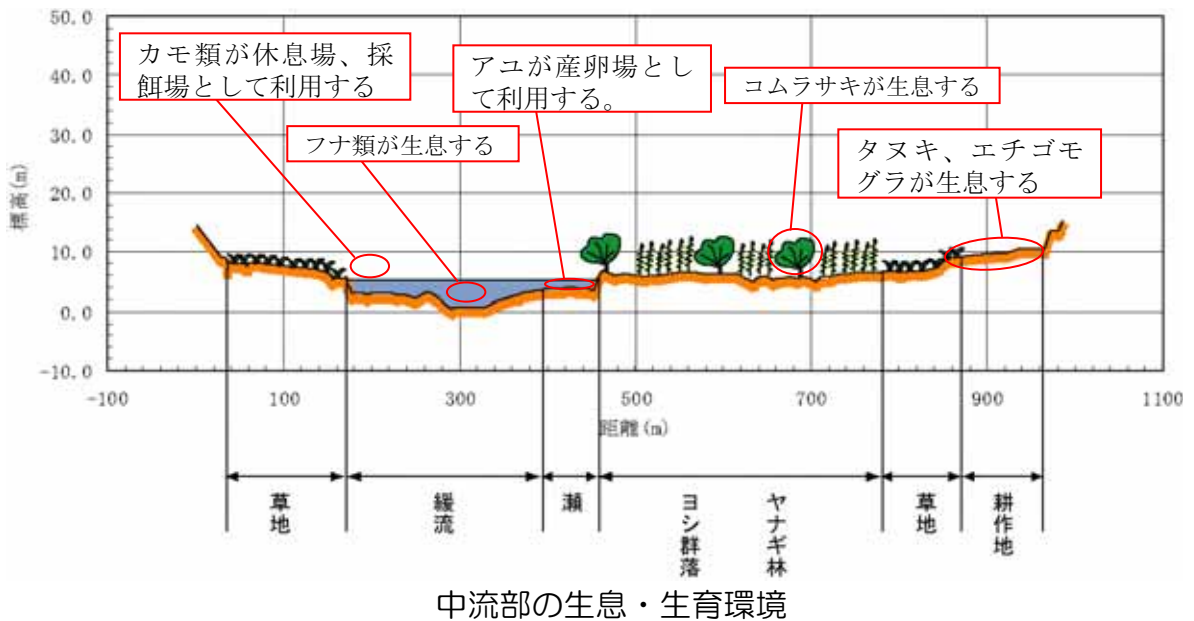
コハクチョウ



オオヨシキリ

# 中流部の自然環境（沢海床固～早出川合流部）

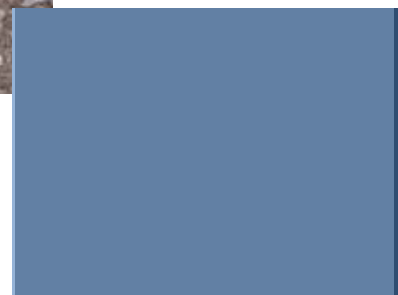
- 本区間の下流端にある沢海第一床固め・第二床固めによる湛水が19k付近まで生じている。
- 瀬をアユが産卵場、オイカワ、コガタシマトビケラが生息場所として利用している。流れの緩やかな場所や止水域では、フナ類が生息する他、カモ類が休息場、採餌場として利用している。蛇行部の水際は、ヨシ等が分布し、オオヨシキリが生息及び繁殖の場として利用している。また、ヤナギ林等も分布し、ヤナギ類を食草とするコムラサキが主に樹林内に生息する。高水敷には耕作地が広がり、タヌキ、エチゴモグラ、アマガエル等が生息している。



阿賀野川中流部の様子



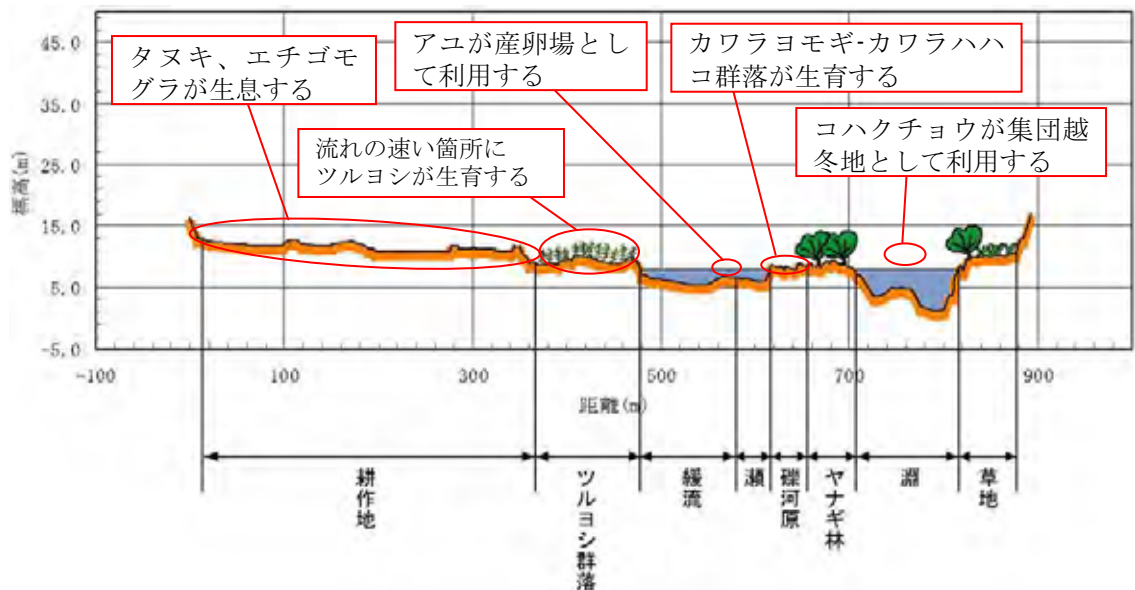
エチゴモグラ



カルガモ

# 上流部の自然環境（早出川合流点～阿賀野川頭首工）

- 本区間の下流部で早出川が合流する。複列砂州が形成され、瀬淵が多く分布している。
- 瀬をアユが産卵場、オイカワ、コガタシマトビケラが生息場所として利用している。流れの緩やかな場所はコハクチョウが集団越冬地として利用している。攪乱の激しい河原には、カワラヨモギ-カワラハハコ群落が生育し、コチドリ等が生息する。水際にはヤナギ林が分布し、流れの早い箇所にはツルヨシ群落が生息している。高水敷には耕作地が広がり、タヌキ、エチゴモグラが生息している。



上流部の生息・生育環境



阿賀野川上流部の様子



オイカワ



アユ

## 大和水辺の楽校

- 阿賀野川大和地区の水辺や高水敷は、隣接する大和小学校で川とふれあう総合学習の場として利用されているが、より安全性が高く、利用しやすい総合学習の場として整備を行う。
- これまでに協議会を7回開催し、地元の意見を取り入れている。



大和水辺の楽校整備箇所



完成イメージ図

## 松浜水辺の楽校

- 阿賀野川河口部の水際に、地域と協力して、水辺での遊びや自然体験と野生生物とのふれあいの場を整備。平成13年6月に開校。
- 地域の皆さんが一体となって子どもたちの活動を支えていく「松浜水辺の楽校応援団」を結成。



松浜水辺の楽校



水生生物調査状況

# 河川空間の利用状況

- 阿賀野川水辺プラザでは、地域交流の場として積極的に利用してもらうため、新潟市・阿賀野市など沿川自治体が「阿賀野川フェスティバル」を毎年開催。
- 松浜橋上流では、花火大会が開催されている。



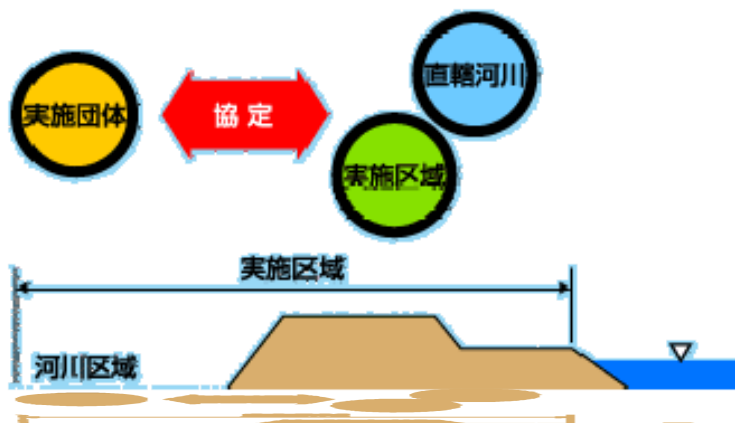
阿賀野川フェスティバルH20.9.14開催



阿賀野川ござれや花火

# 連携・協働による河川管理の推進

- よりよい川を実現するという理念のもと、地域住民が川を我が子のように面倒を見る「ボランティア・サポート・プログラム(仮称)」を推進。具体的にはボランティア団体を「里親」とし、養子である河川の区画を「子」とする行政との協定書に基づいて清掃活動や花壇の手入れなどを行う。



ボランティア・サポート・プログラム概要図



ボランティアサポートによる清掃活動



# 阿賀野川フラワーライン

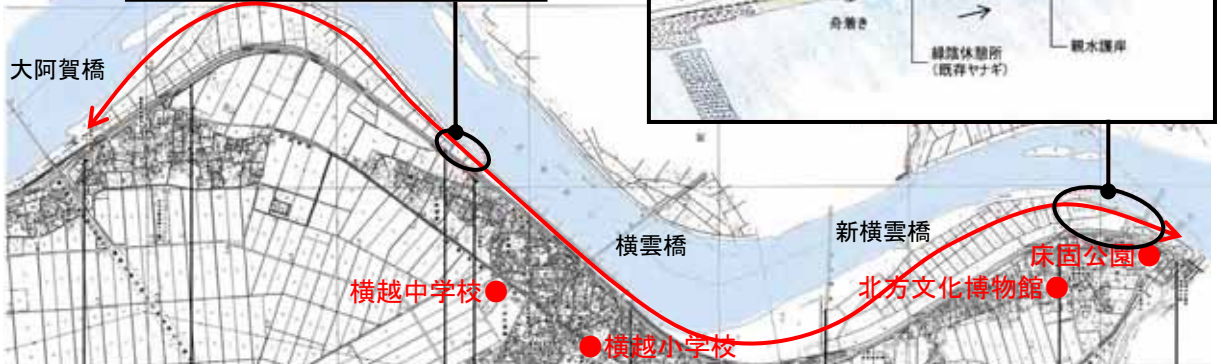
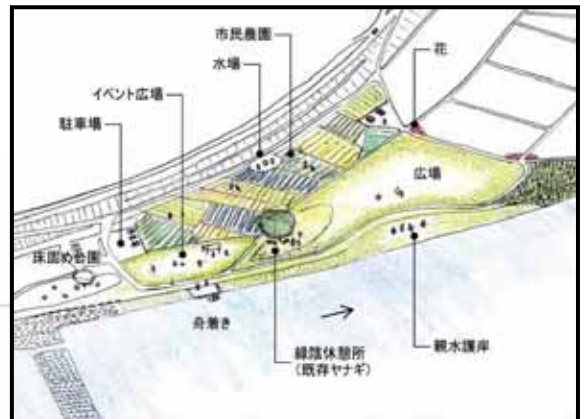
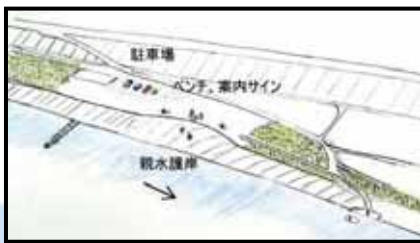
新潟市江南区（旧横越町）において、四季折々の草花や水辺を楽しむことのできる「阿賀野川フラワーライン整備事業」が計画されている。新潟地域合併建設計画の一環として、「北方文化博物館」などの観光資源と連携し、地域振興が期待される良好な河川環境の保全と市民のやすらぎの場となるような親水空間を検討中である。



## 主な基本構想

## 【レクリエーションゾーン】

### 【見晴らしゾーン】



- |       |              |         |         |             |
|-------|--------------|---------|---------|-------------|
| 親水ゾーン | 川辺のサイクリングゾーン | シンボルゾーン | 自然保存ゾーン | 畑のサイクリングゾーン |
|-------|--------------|---------|---------|-------------|



・親水護岸、船着き場等



(床岡公園との一体的利用)  
・親水護岸、船着き場等

# 阿賀野川の環境整備事業



1) 地区名: 松浜  
【水辺の楽校】  
事業内容: 水辺の楽校  
事業期間: H11~H11



2) 地区名: 新崎  
事業内容: 水辺空間整備  
事業期間: H15~H17



5) 地区名: 笹堀  
事業内容: 水辺空間整備  
事業期間: H5~H8



7) 地区名: 下里  
【桜づつみモデル事業】  
事業内容: 盛土  
事業期間: H4~H6



9) 地区名: 大和  
【水辺の楽校】  
事業内容: 水辺の楽校  
事業期間: H18~H20



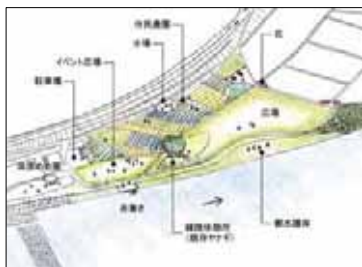
10) 地区名: 砂山  
事業内容: 水辺空間整備  
事業期間: H8~H9



3) 地区名: 本所  
事業内容: 水辺空間整備  
事業期間: S50~S60



4) 地区名: 横越  
事業内容: 水辺空間整備  
事業期間: H19~H29



6) 地区名: 沢海  
事業内容: 水辺空間整備  
事業期間: H5~H7



8) 地区名: 水ヶ曾根  
【水辺プラザ】  
事業内容: 水辺プラザ  
事業期間: H11~H14



● ● ● 環境整備箇所